つるが国際シンポジウム2026
私と原子力の関わり

2026年11月14日

原子力発電環境整備機構（NUMO）
広報部　教育・学習支援グループ
中村　拳

自己紹介

氏名：中村　拳

所属：原子力発電環境整備機構（NUMO）
　　広報部　教育・学習支援グループ

出身：兵庫県神戸市

大学：関西学院大学　社会学部

専攻：社会心理学

- NIMBY問題に関わる合意形成
- 多元的無知



子供向けイベント対応の様子

職務内容：地層処分事業の認知拡大・理解促進を目的とした広報活動

- 教育支援事業
- 出前授業
- 学習支援事業

職務内容

教育支援事業

- 教員・教育関係者による地層処分をテーマとした授業研究・授業実践に向けた取組みを支援。
- 勉強会や施設見学会等を実施。



出前授業でのベントナイト実験の様子

出前授業

- 小学校・中学校・高校・高等専門学校・大学等にＮＵＭＯ職員等が出向いて地層処分に関する情報提供を行い、関心や理解を深める。

学習支援事業

- 地域団体やNPO等による、地層処分について理解を深めるための自主的な活動を支援。
- 定められたメニューから選択する「選択型」と、団体自らが活動を企画する「自主企画型」により支援。
- 勉強会や施設見学会等を実施。

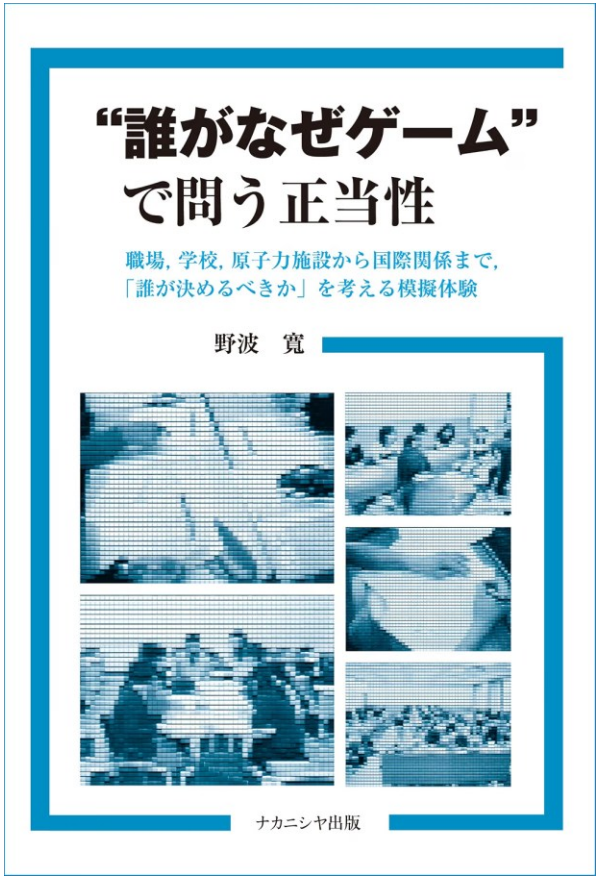


施設見学会の様子

原子力との関わりの理由・きっかけ

大学2年前期に授業で体験した「誰がなぜゲーム」

- 地層処分場を題材に、地元住民、識者・専門家、国民多数者、公的機関の4つのステークホルダーの立場に分かれ、「誰が決めるべきか」に関わる権利の正当性をめぐって合意形成を目指すゲーム
- 野波寛教授の担当する「ゲーミング社会心理学」の最終講義として実施



（野波, 2017）

高レベル放射性廃棄物の処分という、先送りのできない社会課題が存在していることを知る

原子力との関わりの理由・きっかけ

ゼミでの大飯発電所の見学

- 原子力発電所を賛成と反対の両方の立場から捉えて議論を行い、そこで出た疑問や不安点に対して発電所ではどのような安全策が講じられているかを実際に見学して学ぶ

電力消費地から見た福井

- 福井に原子力発電所があることは知っていたが、知っていた“だけ”
- 発電所を見学することで、どこか遠い場所の話だったものが、地続きの現実の話に変化し、より原子力に興味を持つように

原子力との関わりの理由・きっかけ

どういう思いで原子力を仕事にすることに決めたのか

決断の根底にあった思い

“おもしろそう”という気持ちに正直に

地層処分という、困難かつ長期的な国家プロジェクトに携わる
NUMOの仕事　→　**おもしろそう**

原子力に携わって感じたこと

特にバックエンドである地層処分に携わって

- 賛否の分かれる事業ではあるが、将来世代に負担を残さないために一丸となって取り組むことができるのは、やりがいが非常に大きい
- 原子力を専攻していなくても、活躍できるフィールドがある

原子力は「自分とは遠い科学の話」ではなく
社会的観点から見ても非常に“**おもしろい**”仕事